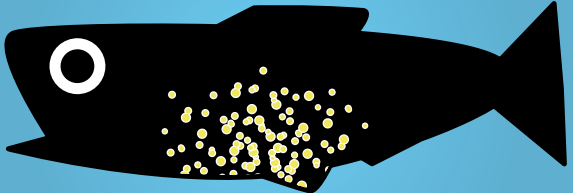


# 海のごみが増えると何が起こるの？


## 海洋ごみとマイクロプラスチック

そのマイクロプラスチックは消化されず、イワシの体内にたまっていきます。



⑤

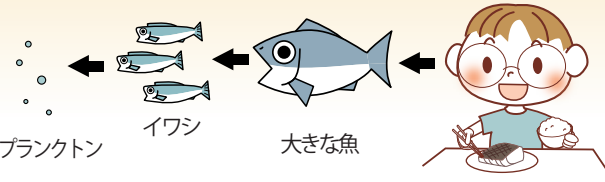
私たちは日々さまざまなごみを捨てています。たくさん！



歯磨き粉 (粒子、チューブ) 空き缶 ストロー 紙くず レジ袋

①

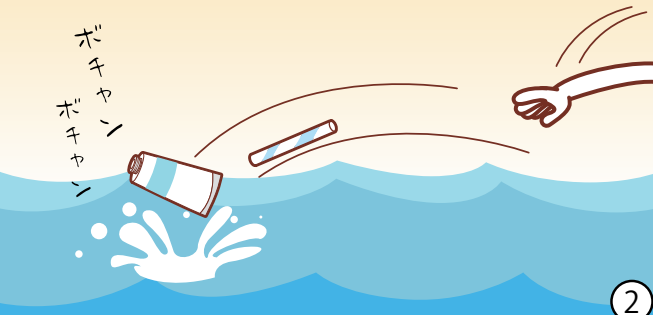
さらにイワシなどの魚を、より大きな魚が、さらに、その大きな魚を私たちが食べています。これは食物連鎖という仕組み。



プランクトン イワシ 大きな魚

⑥

それらがそのままきちんと処理されず海に捨てられると“海洋ごみ”となります。



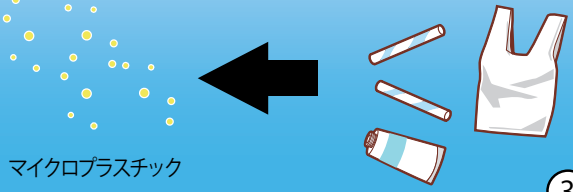
②

つまり私たちは自分たちの捨てたごみ=プラスチックを、体にとり込んでしまっているのです。ここでみなさんにクエスチョン！



⑦

その中でもプラスチック類は分解されることなく、最終的には“マイクロプラスチック”となって漂います。



マイクロプラスチック

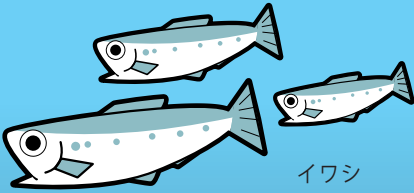
③

魚は食べたい！でもプラスチックは摂りたくない！…という場合、どうしたらよいでしょう？



⑧

さて、海ではイワシなどの魚が小さなプランクトンを食べています。



イワシ

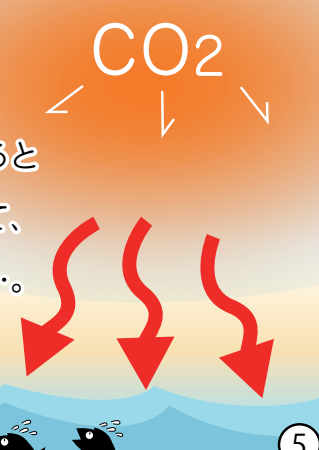
この時、マイクロプラスチックと一緒に食べてしまいます。

④

# 地球が温暖化すると何が起こるの？

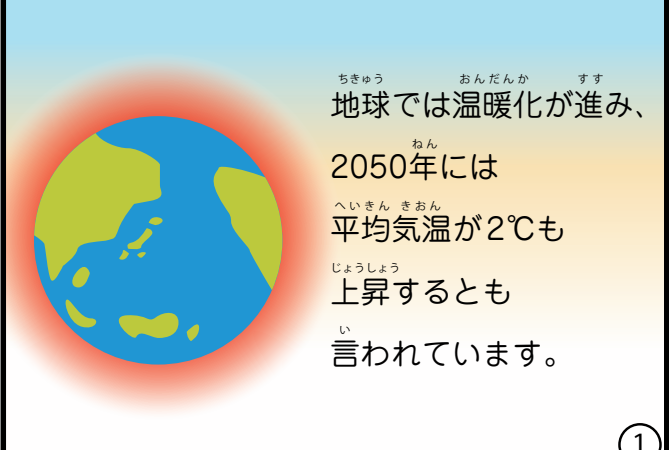
## 地球温暖化と海洋環境の変化

ところが、  
温室効果ガスが増えると  
吸収される熱も増えて、  
海水の温度も上昇……。



5

地球では温暖化が進み、  
2050年には  
平均気温が2℃も  
上昇するとも  
言われています。



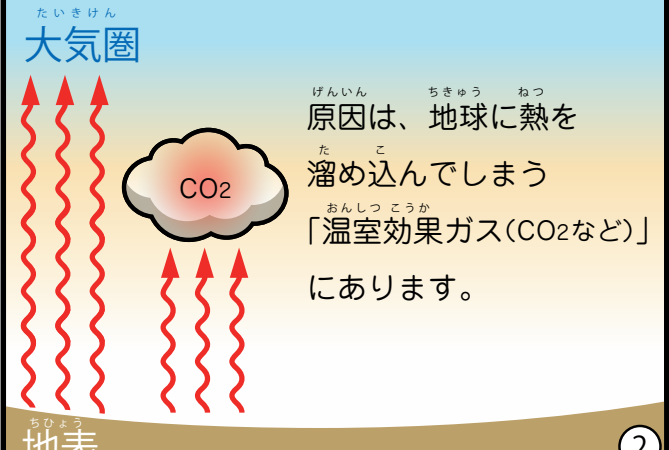
1

私たちが暑いのが苦手なのと同じように、  
高温の海では調子が悪くなり、  
中には死んでしまう卵や魚も……。



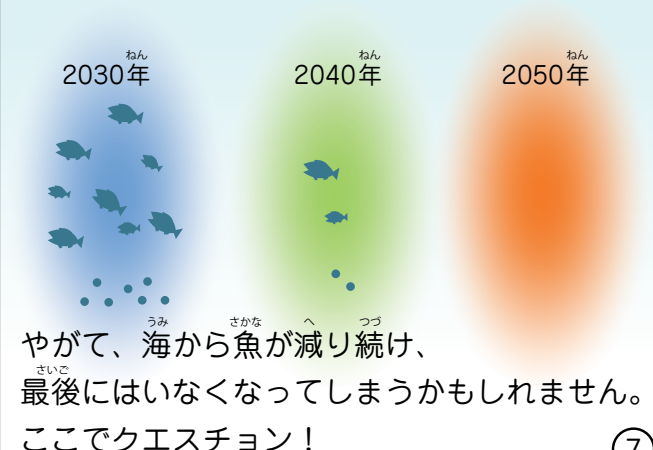
6

大気圏  
原因は、地球に熱を  
溜め込んでしまう  
「温室効果ガス(CO2など）」  
にあります。



2

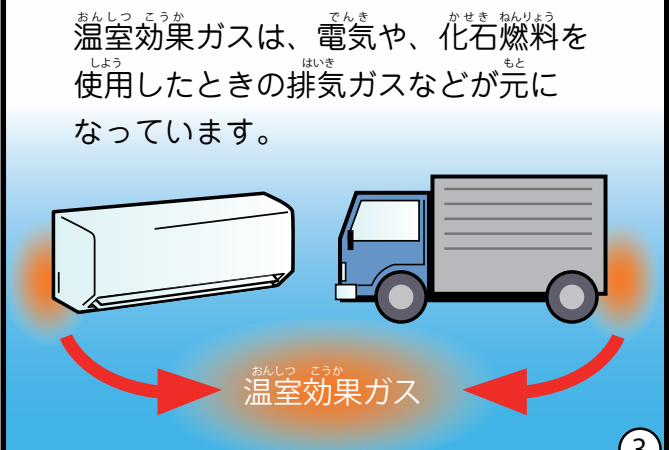
2030年 2040年 2050年



やがて、海から魚が減り続け、  
最後にはいなくなってしまうかもしれません。  
ここでクエスチョン！

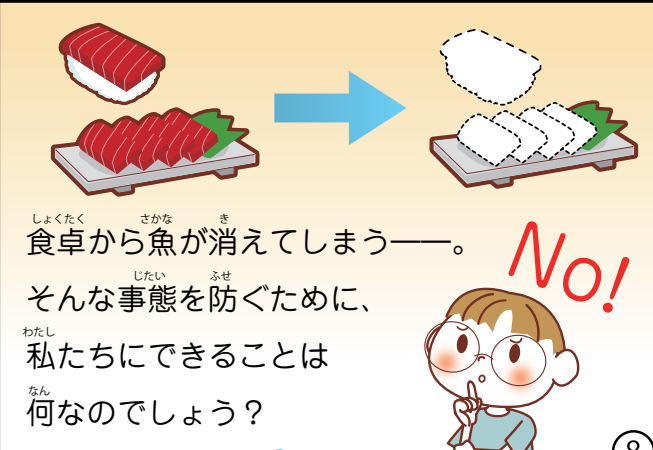
7

温室効果ガスは、電気や、化石燃料を  
使用したときの排気ガスなどが元  
になっています。



3

食卓から魚が消えてしまう——。  
そんな事態を防ぐために、  
私たちにできることは  
何なのでしょう？



8

温室効果ガスと  
大気中の熱を  
吸収してくれるのが  
「海」です。



4

# 魚を獲りすぎると何が起るの？

## 海洋資源の持続可能性

**その①** 漁でとれてもお店で売られない「未利用魚」って知っていますか？

出荷

省かれる

未利用

5

いま世界中の海で魚がとられすぎる「乱獲」により、絶滅しそうになっています。どうしてでしょう？

1

**その②** 味がそっくりな「代用魚」も食べてみましょう。

うなぎ

なまず

あなご

こっちもおいしい！

代用

6

**原因①** 世界中が和食ブームや健康ブームで、食べられる魚の量が増えています。

SUSHI

SASHIMI

TENPURA

2

**その③** 海の魚を減らさない「養殖」の研究も進んでいます。

天然魚を 守りながら 養殖

卵の一部

7

**原因②** 「土用の丑の日」など魚が一度に食べられる時期に、とりすぎがひどくなります。

3

みんなが大人になっても魚が食べられるよう海を守っていきましょう！

8

**原因③** まちがってとられた魚は海に戻されても、弱っているのほとんど死んでしまいます。

では、どうしたらよいのでしょうか？

4